



補足情報

- [vCenter vSphere クライアントを使用した Crosswork Data Gateway のインストール](#) (1 ページ)

vCenter vSphere クライアントを使用した Crosswork Data Gateway のインストール

Crosswork Data Gateway は通常、ネットワーク管理サービスの提供に使用されるのと同じ仮想化インフラストラクチャ内に展開されます。詳細な要件については、[Cisco Crosswork Data Gateway Installation and Configuration Guide for Cloud Applications](#) ガイドのインストール要件セクションを参照してください。

展開前に、次の情報または要件が満たされていることを確認します。

	要件
<input type="checkbox"/>	HTTPS/TLS Crosswork Data Gateway は、HTTPS/TLS を使用して外部クラウドサービスに接続できる必要があります。
<input type="checkbox"/>	プロキシ (インターネットへのアクセスに必要な場合)
<input type="checkbox"/>	ルータへの直接 SSH アクセス Crosswork Data Gateway は、SSH プロトコルを使用してデータドシエ収集のためにルータに接続します。管理ネットワークとルータ間のアクセスを制限するように設計されているファイアウォールポリシーでは、Crosswork Data Gateway からルータへの SSH アクセスを許可するように調整する必要があります。SSH 収集は通常、ルータの IPv4 または IPv6 管理イーサネットアドレスを対象としていますが、インバウンド SSH アクセスを許可するルータ上の任意の IP アドレスも使用できます。
<input type="checkbox"/>	管理インターフェイスの IP アドレス

	要件
<input type="checkbox"/>	(任意) サウスバウンドインターフェイスの IP アドレス
<input type="checkbox"/>	OVF テンプレート情報 (ステップ 3 を参照)

さまざまなプラットフォーム (VMware、OpenStack、Amazon EC2 など) に Crosswork Data Gateway をインストールできます。次の手順は、vCenter vSphere Client を使用して Crosswork Data Gateway VM を展開するためのクイックリファレンスとして使用することを目的としています。考えられるエントリの例が示されており、ユーザーが VMware vCenter OVA のインストールに精通していることを前提としています。他のプラットフォームに関する詳細なガイドンスまたは情報が必要な場合は、次のマニュアルを参照してください。

- [Cisco Crosswork Data Gateway Release Notes](#)
- [Cisco Crosswork Data Gateway Installation and Configuration Guide for Cloud Applications](#)

ステップ 1 **Crosswork Data Gateway イメージ (*.ova) ファイル**をダウンロードして、ファイルの保存場所をメモします。ファイルの拡張子が .dms の場合は、.ova に変更します。

ステップ 2 vCenter vSphere Client にログインし、[アクション (Actions)] > [OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] を選択します。

ステップ 3 [OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] ウィザードのプロンプトに従います。

表 1: OVFテンプレートの展開

ステップ	説明	例
OVFテンプレートの選択	Cisco Software Download サイトからダウンロードした OVA イメージファイルを選択します。	[ローカルファイル (Local File)] > [ファイルの選択 (Choose File)] > [ダウンロード (Downloads)] > [cw-na-dg-4.5.0-19-release-20230119.uefi.ova]
名前とフォルダの選択	デフォルトを受け入れるか、この Crosswork Data Gateway VM の任意の名前 (デフォルトは OVA ファイル名から取得) を入力し、VM を配置するデータセンターを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • Crosswork Data Gateway VM 名 : Crosswork Data Gateway 4.5 • データセンター : ABCcompany_lab
コンピューティングリソースの選択	データセンター内で、VM を展開するホスト (物理サーバー) を選択します。	ABCcompany_hostserver1.com
詳細の確認	VMware vCenter Server によって OVA が検証され (ネットワーク速度によっては 1 分かかる場合があります)、確認用の詳細を含むこの画面が表示されます。	—

ステップ	説明	例
ライセンス契約	ライセンス契約を確認します。	—
コンフィギュレーション	展開構成として [Crosswork Cloud] を選択します。 (注) これは、必ずしもデフォルトで選択されているとは限らないため、[Crosswork Cloud] が選択されていることを確認します。別のオプションを選択した場合は、展開を最初から開始する必要があります。	Crosswork Cloud
ストレージの選択 (Select Storage)	仮想ディスクとフォーマットを選択します。 デフォルトでは、最初の仮想ディスクが選択されます。空きディスク容量が最も多いディスクを選択するのが理想的です。 [互換性 (Compatibility)] の下にエラーがないことを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> • 実稼働環境の場合、[シックプロビジョニング Lazy Zeroed (Thick Provision Lazy Zeroed)] を選択します。 • 開発環境の場合、[シンプロビジョニング (Thin Provision)] を選択します。
ネットワークの選択 (Select networks)	トラフィックの送信に使用する予定の vNIC の数に基づいて、送信元ネットワークごとに適切な宛先ネットワークを選択します。I vNIC0 から順に、使用する宛先ネットワークを選択してください。未使用の vNIC は、デフォルト値のままにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 つの vNIC : すべてのトラフィックが vNIC0 で送信されます。 • 2 つの vNIC : 管理トラフィックは vNIC0 で、データトラフィックは vNIC1 で送信されます。 • 3 つの vNIC : 管理トラフィックは vNIC0 で、ノースバウンドデータトラフィックは vNIC1 で、サウスバウンドデータトラフィックは vNIC2 で送信されます。 	次の例では、すべてのトラフィックが vNIC0 で送信されます。次の「 テンプレートのカスタマイズ 」ステップで 1 つのアクティブな vNIC のみを選択した場合、vNIC1 と vNIC2 のエントリは無視されます。

ステップ	説明	例
テンプレートのカスタマイズ	IPアドレス、vNIC ロールの割り当てなどを設定します。	

ステップ	説明	例
		<p>すくなくとも、以下のオプションを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ホスト情報 (Host Information)]> [ホスト名 (Hostname)] : Cisco-CDG • [ホスト情報 (Host Information)]> [説明 (Description)] : TrustInsights-CDG • [ホスト情報 (Host Information)]> [アクティブなvNIC (Active vNICs)] • すべてのパスフレーズ <ul style="list-style-type: none"> (注) これらのロールとパスワードは、Crosswork Data Gateway にログインするために使用されます。 • vNIC0 IPv4 または IPv6 アドレス情報 : 172.23.291.12 <p>(最後のステップで) 複数の vNIC をアクティブにすることを選択した場合は、他の vNIC (vNIC1 および vNIC2) の詳細を入力します。それ以外の場合は、他の vNIC セクションをスキップします。</p> • [DNSサーバー (DNS Servers)]> [DNSアドレス (DNS Address)] : 171.70.168.183 • [DNSサーバー (DNS Servers)]> [DNS検索ドメイン (DNS Search Domain)] : cisco.com • [NTPv4サーバー (NTPv4 Servers)]> [NTPv4サーバー (NTPv4Servers)] : ntp.esl.cisco.com • [コントローラの設定 (Controller Setting)]> [CrossworkコントローラIP (Crosswork Controller IP)] <ul style="list-style-type: none"> (注) crosswork.cisco.com と入力します。 • [コントローラの設定 (Controller Setting)]> [Crossworkコントローラポート (Crosswork Controller Port)]

ステップ	説明	例
		<p>(注) 443 と入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロキシまたはファイアウォールを使用する場合は、[プロキシサーバーのURL (Proxy Server URL)]。 <p>詳細については、展開パラメータとシナリオを参照してください。</p>
終了準備の完了	設定のサマリーを確認する。	—

ステップ 4 vCenter vSphere クライアントの [最近のタスク (Recent Tasks)] タブで、[OVFテンプレートの展開 (Deploy OVF template)] ジョブと [OVFパッケージのインポート (Import OVF package)] ジョブのステータスを確認します。

ステップ 5 展開ステータスが 100% の場合は、VM をクリックし、[アクション (Actions)] > [電源 (Power)] > [電源オン (Power On)] の順に選択します。

ステップ 6 5 分後、vCenter 経由で Crosswork Data Gateway にアクセスして、インストールが成功したことを確認します。

a) VM を右クリックし、[コンソールを開く (Open Console)] を選択します。

a) ユーザー名 (割り当てられたロールに応じて **dg-admin** または **dg-oper**) と、対応するパスワード (インストールプロセスで作成したパスワード) を入力し、**Enter** を押します。

ステップ 7 SSH 経由で Crosswork Data Gateway VM にアクセスできることを確認します。

a) Crosswork Data Gateway 管理 IP にアクセスできるワークステーション端末から、ssh <username>@<ManagementNetworkIP> コマンドを実行します。

ここで、<username> は **dg-admin** または **dg-oper** であり、<ManagementNetworkIP> は IPv4 または IPv6 形式です。

b) パスワード (OVF テンプレートウィザードで入力したパスワード情報) を入力します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。